水素エネルギーに関する国際会議「HENCA Tokyo 2026」開催報告

【概要】

名称：ＨＥＮＣＡ　Ｔｏｋｙｏ　２０２６（Hydrogen Energy Conference for Action）

日時：令和8年10月14日（水曜日）13時～18時

10月15日（木曜日）10時～18時

内容：２日間にわたりサミットを開催するとともに、展示会を併催

会場：Tokyo Innovation Base（TIB）東京都千代田区丸の内3-8-3

サミット登壇者数：10月14日（JAPAN DAY）16名
10月15日（GLOBAL DAY）17名
展示会出展者数：26者
来場者数：484名（2日間合計、登壇者・出展者除く）





10月14日　JAPAN DAY

小池百合子東京都知事の開会挨拶に続き、グリーン水素率先利用事業者の認証式を実施。今年度は新たに５社を認証しました。その後、村瀬佳史資源エネルギー庁長官に経済産業大臣の祝辞を代読いただき、続いて3つのセッションを実施しました。



＜開会挨拶（小池東京都知事）＞



＜祝辞代読（村瀬資源エネルギー庁長官）＞



＜グリーン水素率先利用事業者　認証式＞

※グリーン水素率先利用事業者認証式の様子や事業者の取組については、下記ＨＰからご覧ください。
https://www.green-h2-certification.metro.tokyo.lg.jp/

Session 1　水素大動脈構想から始まる社会実装

国内各地の水素供給拠点と需要地をつなぐ「水素大動脈構想」をテーマに、国、自治体、企業・団体それぞれの立場から、水素社会の実現に向けた取組を紹介。水素の需要拡大と供給インフラ整備を一体的に進めていく重要性について議論しました。









モデレーター：川久保カロリーナ（ドイツNRW州貿易投資振興公社日本法人代表取締役社長）
村瀬佳史（資源エネルギー庁長官）、佐藤恒治（JH2A会長）、小池百合子（東京都知事）、
大村秀章（愛知県知事）、ニコラ・ボナルデル（在日フランス商工会議所事務局長）

※登壇者の敬称は省略しています。また、所属・役職については、一部簡略化して表記しています。

Session 2　都市の水素実装に向けた官民連携

山梨県の再生可能エネルギーを活用したグリーン水素の地産地消や、新潟県における国産天然ガスを活用したブルー水素・アンモニアの取組、地域熱供給やまちづくりなど、各地域の特色を生かした水素の利活用について紹介。自治体や企業など多様な主体が連携し、水素を暮らしや都市に実装していく取組について議論しました。







モデレーター：デイビッド・ローソン（オーストラリアNSW州政府駐日事務所　駐日代表）
小池百合子（東京都知事）、長崎幸太郎（山梨県知事）、加賀野井彰一（INPEX JAPAN代表取締役社長）、井上波（TBSホールディングス執行役員）、鯉渕祐子（三菱地所株式会社執行役員）

Session 3　水素モビリティの導入促進

ＦＣトラック・ＦＣバスの開発や、実際に運転する方から見た使い勝手、水素ステーションの整備、福島県における水素の製造・利用など、水素モビリティを取り巻く幅広い取組を紹介。車両と供給インフラの両面から、さらなる普及に向けた課題や今後の展望について議論しました。







モデレーター：猪岡メリッサ（オーストラリアQLD州政府駐日事務所　駐日代表）
佐藤宏隆（福島県副知事）、奥山理志（いすゞ自動車株式会社常務執行役員）、喜村博（岩谷コスモ水素ステーション合同会社代表職務執行者）、中嶋美恵（一般社団法人女性バス運転手協会代表理事）



ＪＡＰＡＮ ＤＡＹの締めくくりとして、山梨県の長崎幸太郎知事より閉会の挨拶をいただきました。
長崎知事からは、水素社会の推進にあたり、多様な主体がそれぞれの強みを持ち寄って連携を深めること、共に創り上げていく「共創」の重要性についてお話しいただきました。

＜閉会挨拶（長崎山梨県知事）＞

10月15日 GLOBAL DAY

小池百合子東京都知事による歓迎挨拶のほか、IEA 技術イノベーションユニット長のアラセリ・フェルナンデス・パレス氏、元米国エネルギー省のスニータ・サティヤパル博士による基調講演、国内外の有識者や企業関係者等による３つのセッションを行いました。



＜基調講演１（パレス氏）＞



＜基調講演２（サティヤパル博士）＞



＜歓迎挨拶（小池都知事）＞

小池知事の歓迎挨拶では、東京都立大学がサティヤパル博士が責任者を務める国際水素・燃料電池研究機構（GIHF）とパートナーシップ契約を締結したことも発表されました。

※東京都立大学とGIHFとの連携の詳細については、以下の都立大学プレスリリースをご確認ください。
https://www.tmu.ac.jp/news/topics/38984.html

Session 1 大西洋水素回廊構築の取組

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州、オランダ、米国メキシコ湾岸における水素Hubの形成や国際連携の取組を紹介。水素の製造・輸送・利用を一体的に進める拠点づくりに加え、ロッテルダム港とメキシコ湾岸の連携など、地域を越えた水素サプライチェーンの構築や国際取引に向けた取組について議論しました。





モデレーター：原大周（NEDO　水素・アンモニア部　水素共通基盤ユニット長）
デイビッド・ローソン（NSW州政府駐日事務所駐日代表）、リンデ・ブルークラー（オランダ大使館二等書記官）、リス・グローネンダール（オランダ水素協会専務取締役）、ブレット・パールマン（ガルフ・エナジー・カタリストCEO）

Session 2　グローバル市場における先進的な取組

水素を安心して取引できる市場を形成するために必要な仕組みについて議論しました。認証・規格、コスト、供給インフラ、需要など、それぞれの課題を踏まえ、民間企業と公共部門が連携しながら、信頼性と事業性を備えたクリーン水素市場を創出していく重要性が共有されました。





モデレーター：末廣能史（エネルギー・金属鉱物資源機構（ＪＯＧＭＥＣ）水素事業部　部長）
シャイレシュ・トピワラ（Robert Bosch LLC）、アラナ・バーロウ（スパーク・ハイドロジェンCEO）、野村圭（川崎重工業株式会社水素戦略本部長）、中島梓（株式会社商船三井　燃料トランジション戦略事業チーム　チームマネージャー）

Session 3　グローバル市場創出に向けた連携

欧州における水素関連規制や国際取引、フランスの低炭素水素、水素市場を支える人材育成、東京都の水素需要創出など、各国・地域における市場形成に向けた取組を紹介。水素市場のさらなる発展に向け、国や地域、官民が相互理解と信頼関係を築きながら連携していく重要性について議論しました。





モデレーター：大平英二（JH2A　欧州代表）
小池百合子（東京都知事）、スニータ・サティヤパル（元米国エネルギー省水素・燃料電池技術局所長）、アルチュール・カルヴァ（在日フランス大使館参事官）、マルクス・エクセンベルガー（H2グローバル財団会長）、ハイツェ・ジーメルス（欧州委員会エネルギー総局長上級顧問）



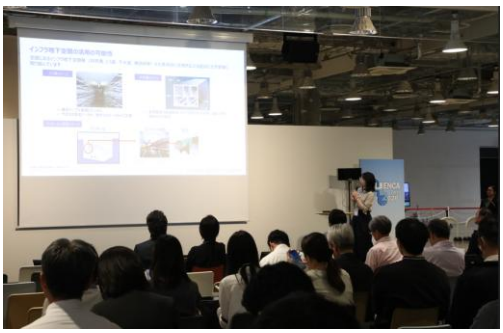
２日間の締めくくりとして、Ｈ２グローバル財団のマルクス・エクセンベルガー会長より閉会の挨拶をいただきました。

エクセンベルガー会長は、水素の普及に向けて、ＨＥＮＣＡで行われたような対話を重ね、長期的に信頼できるパートナーとの関係を築いていくことが重要であるとの考えを示しました。

＜閉会挨拶（エクセンベルガー会長）＞

10月14日･15日 EXHIBITION

水素分野で先進的な取組を進める自治体や、国内大手メーカー、サプライヤーなど、水素の社会実装を担う多彩な企業・団体が出展。スタートアップゾーンには、日本、米国、オーストラリア、ベルギーの企業が参加したほか、企業プレゼンテーションも行われ、国内外の参加者による活発な交流の場となりました。









東京都ブースでは、京浜島グリーン水素製造所で使われている水の電気分解の仕組みの模型を展示。また、「TOKYO H2プロジェクト」のブースでは、14日に発表されたグリーン水素を活用して出来た原料を使用したリップクリームも紹介し、グリーン水素が身近な製品へと活用される新たな可能性を発信しました。





※グリーン水素を活用して出来た原料を使用した化粧品の詳細は、以下のプレスリリースをご確認ください。
https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/10/2026101404